

奈良高専 図書館だより

記事

1. 読書のすすめ
2. 卒業生からのメッセージ
3. 平成2年度読書感想文コンクールについて
4. 図書館委員会・学生図書委員について
5. 見なおそう!“岩波ジュニア新書”
6. 図書館利用統計

1990年7月 奈良工業高等専門学校図書館 発行

読書、そして図書館

学校長 中西 義 郎

“図書館だより”に何かということ、これを機にこれまでの“図書館だより”(No.1～No.28)に目を通していただいたが、教官方からの寄稿のほとんどは学生への読書のすすめを主題にされている。高専での“図書館だより”としてはこういったものになるのも充分うなづけることであり、私からもまずはその趣旨に沿って希望を述べておきたい。

その1つは、読むのにエネルギーを必要とするものを読んでほしいということである。図書といってもその種類は多様であり、また読書といってもその態様はさまざまである。どんな本をどんな読み方をしようとも、それはそれなりの意義をもつとってよかろうが、能力にしる人間性にしろ積極的なレベルアップにつなげようとする読書には、それなりのエネルギーが必要である。若い時代にそういった読書の経験をもってほしいし、また学生時代だからこそそういった読書を心がけてほしいと思う。

もう1つは、必読図書についてである。小谷先生が図書館委員長をしておられたときの言葉を借りれば、学生諸君に良書選択のめやすを示すことは年長者の義務である。このような趣旨で10年ほど前に奈良高専必読図書100冊が選定されており、その手引きがつくられている。名著を自分の手で発見した喜びはその書物への感動と関心を倍増してくれることで、名著の発見は自分の手でというのが理想ではあろうが、いずれより高いレベルでこういった名著の発見、出合いができるためにも、すすめられた良書で力をつけておくことは大事であろう。ということで、最近忘れられかけようとしている奈良高専必読図書100選を一必要なら見直しをして、学生に対する図書館利用の説明の機会などに学生に教示していただきたいし、また学生諸君はそれを活用してほしい。

話は変わるが図書館について少し触れておこう、高専における図書館の使命が学生の勉学支援であれば、図書の充実と利用環境の整備が主な課題であり、さほど高度なサービス機能は必要でないかも知れない。今後、教官の研究、教育活動に対する支援も含めて、学術情報の校内中枢としての機能が要請されるとすれば、校外の学術情報システム、学術情報データベースとのかかわりあいのもとで、その在り方を構想し検討しておくことが必要であろう。

また、図書、図書館に関係した新しい動向—たとえば、電子出版テレマティークライブラリシステム—にも目を向けておくことも必要であろう。

卒業生からのメッセージ

図書館の利用方法

機械工学科 森本泰正

もう卒業か。

5年といっても早いもんやなあ。

中学生やってんけどなあ。

5年間何しとってんやろ。

卒業が目の前に見えたときの感想です。本当にあっという間に卒業という気がします。中学生の頃と現在の自分はどう変わったのでしょうか。確かにこの5年間でいろんな難しいことを学び、知識は増えたでしょう。特に専門のことについての知識はある程度大きな物になったことは間違いありません。しかし卒業を迎えた今、20歳の自分が中学生の頃と比べて大人になったなあという気はそれほどしないのです。困ったことです。それでまあ皆さんも時々現在の自分と中学時代の自分を比べてみて、どれだけ進歩してるか考えるのもいいかも知れません。(マイナスに進歩していないことを祈ります。)

さて、図書館についてということなのですが、僕は専らレポートの参考文献や試験のときなんかにご利用させていただぐらいで、趣味として図書館に行って小説なんかを読むということはありませんでした。それで図書館の有効利用なんてあまり言えませんが、あえて言わせて貰いますと、

「よく図書館に行く。」

これに尽きると思います。これができれば有効利用したのも同然です。別に本を探しにとか読むためにいくというのではなく、ただ“遊び”に(余りいい表現ではない)いっただけでいいのです。我が高専図書館は大きな声で喋ったりしないかぎりおこられませんから、友達同志誘いあって暇つぶしのような気軽な感じでいきましょう。図書館側も皆さんがよく利用してくれるようにとAV機器の設置を初め様々な工夫をされておられるようですから、どんどん図書館で“遊び”しましょう。まあ5年間1回も図書館に行かなかったという人はいないと思いますが、あるものはなるだけ使わないと勿体無いと思います。そうして何度も何度も

図書館に足を運ぶ癖がつけば、そのうちすばらしい一冊に出会うといった新しい発見ができるはずです。何か自分なりに発見ができれば、それであるあなたは図書館を有効に利用したことになると言えるでしょう。

それでは僕が図書館をどんなふうに有効利用したか紹介しましょう。僕の場合、先程も述べたように図書館はレポートや試験のときなんかには有効的に利用してきました。レポートでは研究課題なんかが出されると「なんかいい参考文献がないかなあ」ときがす訳ですがそうするとよく、文章の途中で線が引いてある本に出くわすわけです。「これだ」と思ってその線の引いてあるところを写すわけです。これで完璧です。親切な先輩の方々が後輩のためにレポートに必要な文章を教えてくれるわけです。また試験の対策になるような本はないかなあと探していると、演習問題なんかの見出しに丸印がうってあったりするのを見付けたりします。そういった本は過去の先輩達の試験で出た可能性がありますから少しチェックが必要です。(とくに物理など) こういったことは余りまともな図書館利用法とは言えませんが、普通の図書館ではできない高専図書館らしい活用方法ではないでしょうか。まあ「レポートや試験なんてコピーが回ってくるからそんなことせんでもええわ」と言われればそれまでですが、そういう人もたまには図書館で調べてみてください。

あまりたいした図書館の有効利用法をお教え出来ませんでしたが、とりあえず図書館に“遊び”にいった図書館好きになることをお勧めします。きっと本のおもしろさと重要性が発見もしくは再確認出来るはずです。

『高専における図書館の傾向とその対策』

機械工学科 吉村朋朗

何か図書館について書くという事であるが、色々と考えた末に月並ながら『五年間を振り返って私と図書館』みたいな内容を書いてみようと思った。題名はアイキャッチであって内容と関係なく決めたので、そのつもりで読んで欲しい。

この高専に入って最初の2年間、つまり丁度学生服で通っていた間はほとんど図書館に足を踏み入れたことはなかった。だからと言って本が嫌いという訳ではなく、逆に本を読む事は好きな事の一つである。現にその頃、一週間に4、5冊（その大半が書き下しの〇〇ミステリーといった簡単なものであったが）のペースで本を読み飛ばしていた。この本は自宅の近く（徒歩5分）にある市立の図書館から借りていた。

3年生になると、まだ少しばかりは来るようになった。これは専門書が必要だったからである。機械科は（現在ではどうか知らないが）1、2年生の間は専門書なしで報告書を書けたが、3年生になると設計などのために必要になって来たのである。

この3年生の時の夏休みには図書館で2週間のアルバイトをした。これが図書館と近づく大きなきっかけであったと思う。図書館でアルバイトという涼しい中で本の修繕やちょっとした整理でもおとなしくやりそうに聞こえるが、この年は本にバーコードを貼るという作業の手伝いをしたので、図書館の中と各教官の研究室にある蔵書の全てを書架から一度出してバーコードを貼った後にまた元の所に戻すといった事をやった訳だ。これはちょっとした肉体労働であった。

これが4年生になると、いかな機械科でも報告書を書く為に専門書が必要になる。この為にかかなりの広範囲（化学・電気・物理も含めて）にわたってウロついた記憶がある。更にこの年の夏休みにも図書館のアルバイトをした。この時に書架の配置を現在のように変えて、今の開放的な雰囲気（図書館が誕生したのである。と、大袈裟な書き方をしたが、この配置というのは特に気に入っているのである。同時に本の整理もした。分類・配置を行ったのである。つまり書架だけでなく、ほとんどの本を入れ換え、整理したのだ。

5年も後期に入ってから図書館に入りびたるようになった。まあ、クラブの連中と一緒にダベったり（図書館内では静かにしなければならないから静かに喋っている。せっかく開放的になったのだから少しはいいのではないかと思う）するからという事もあるし、卒業前になって改めて図書館に、読んでいない面白そうな本がある事に気が付いてアセッていたのである。

図書館の中を隅々まで見た事のある人は分かると思うが、高専の図書館には専門書類を始めとし

て種々雑多な本が並んでいる。おそらく、誰でも自分に興味のある分野、興味を持たせるような本を見つける事ができるだろう。色々な分野に興味があると、面白そうな本が次から次から見付かって来るので大変である。

もし、図書館の中に興味のある本が全然ないという人が居るなら、自分が面白そうだと思う本を図書係の人に注文してみればよい。確実に入るとは言えないが、マンガが入り始めたのも学生の意見からである。他にも「こうしたい」と思う点があるなら言うてみる事である。高専の図書館というのは学生の為にあり、学生が造っていくものである（古くさい言い回しだな）。

具体的にどんな面白い本があるかというのと、これはSF研究会（おーさりげないクラブの宣伝）に入っていたのでSFを勧めたい所ではあるが、とにかく面白かった、面白そうだと思う本を書いておく。

雑誌類ならば『歴史読本』や『太陽』『SFマガジン』『キネマ旬報』、特に『ニュートン』と『科学朝日』が面白いと思う。小説ならば絶対に読んで欲しいのが『アルジャーノンに花束を』である。他にも岩波文庫や全集物の中に日本・外国の名作がそろっている。単行本の『モモ』などもいい。雑多なものでは『ブルーバックス』シリーズは特に勧めたい。それに『アシモフ選集』（別にSFではない）や『旧約・新約聖書』『プラトン全集』『フロイト全集』『TABIDASU』『日本のわらべ歌全集』『四字熟語の辞典』『カスパーハウザー』『謎のイースター島』等々が面白い。理系の学生だからと言って片寄らず、広範囲の分野に手を出して欲しい。

最後に。図書館とは余り関係ないが、新入生に書くのはこの場しかないので書いておく。この学校は求めれば与えられ、叩けば門が開く学校なのだから“何か”をやってみて欲しい。

五年間をふり返って

～僕の図書館～

電気工学科 平井一男

五年という年月は確かに長いように思われますが、ふり返ってみると、何だかすぐに終わってしまったように感じます。

しかし、すぐに終わったように感じて、思い

出というものは数えきれないほどたくさんあります。特に僕の場合は同好会を3つも設立したり、毎年毎年“留年”しそうになったりと、波乱万丈の五年間でした。その上、SF研など現存サークルを含めると、5つものサークルに席を置いていたのです。でも、サークル活動以上に活動していたものがあります。それが図書委員会活動です。

活動、といってもたいしたことをしていたわけではなく、カウンターに座って図書の貸し出しをしたり、バーコード導入時における蔵書整理をほんの少し手伝ったり、学生へのアンケートの原稿を作ったりしたぐらいです。でも実際は係の人に迷惑をかけていただけのようにも思います。

五年間のうち、三年間を図書委員として過ごし、委員長を勤めたこともありました。そのためか、昼休みともなると教室や研究室よりも図書館にいるときのほうが多いのです。

図書館にいる時間が長いということは、それだけ利用者をよく観察していたということにもなります。

そこで、利用者のマナーワースト5を上げてみましょう。

まず第5位。これはビデオを導入したために起こりました。ヘッドホンに耳にあてず、音声を大きくして多人数で見る人。これはまわりに迷惑がかかるためにやめていただきたい。最近では最大4人まで同時に利用出来るようになったので、少し減っています。

次に第4位。話し声が大きい。私もよく注意されていたので他人のことは言えませんが。とにかく、図書館ではお静かに。

第3位。カバンの持ち込み。いくら注意しても“私は関係ない”というような顔で平気で持ち込む人がいるのです。確かにカバンの中からいちいち本やノートなどを出してテーブルまで運ぶのは面倒なのはわかりますが、規則は規則なのです。守ってもらわないといけません。

さて、第2位です。皆さん知ってのとおり、図書館の出入口には赤外線センサがついています。利用者の人数カウンターとして使われているもので、“おもちゃ”ではありません。いたずらにカチャカチャとカウントして遊ぶのはやめて下さい。毎日、係の人がチェックしている大切なものです。それが、前月故障していたのです。いたずらが直接の原因とは思いませんが、とにかくやめていただきたい。

利用者の悪いマナー栄えある(?)第1位。入学してから1、2年はほとんど、いや誰もいなかったように思うほどごく最近目立ってきたものです。おそらく低学年だと思います。

図書館内での飲食。これまで、いや、4、5年生は図書館に入る前に必ず食べ物は始末するのですが、図書館内のゴミ箱にはおかしな袋やアイスキャンディーの棒が入っているのです。市立図書館やその他の図書館どこを見ても、そんなゴミが捨ててある所は一つもありません。小学生、中学生が守っている規則を高専生が守っていないというのは、あまりにも悲しい事実です。

以上、僕が図書館にいたとき気付いた点を少し遊びながらですが述べさせてもらいました。五年間という長い年月。レポートや宿題、テスト勉強と、図書館にはお世話になるのです。この文の題に“僕の図書館”と書きましたが、みんな一人一人が“僕の図書館”という気持ちで、大切にしていって下さい。

図書館と私

化学工学科 久保清泰

私は、あまり本を読む方ではありません。そのような私が、いきなり「『図書館だより』」に載せるから原稿を書いてくれ。」と、いわれましてどう書いたらよいものかと、悩んでしまいます。しかし、この5年間、私は私なりに図書館を利用させてもらいましたので、私なりの利用法を書いてみたいと思います。

まず、「高専の図書館」と聞いて連想するのが、専門書です。私は化学工学科なので、化学の専門書しか知りませんが、その蔵書数の多さには目を見張るものがあります。1年の時は、これらの専門書を見てもほとんどわからず、「卒業する時には、わかるようになるのだ。」と、思っていました。しかし、卒業を控えた現在、やはり半分もわからず、「この5年間は何だったんだ。」と、思ったりしていますが、それでも、1年の時よりは、少しはわかるようになり、5年間で、私の目標である“化学技術者”に半歩でも近づけたのだと喜んでいます。

次に、私は陸上部に所属していましたので、練習内容、練習計画、調整の仕方などを調べるのに、陸上競技の指導書をよく読みました。そのような時、上級生の人には知っていると思いますが、当時

はバーコード処理ではなく、貸出カード制だったので、本の裏にある貸出カードに、陸上部の歴代OBの名がずらりと並んでいるのを見つけると、「OBの人達も、この本を見て強くなっていったのだ。」と、やる気がでてきたものでした。

また、私は、小説類はあまり読みませんでした。図書館にある手塚作品を始めとする“漫画”はほとんど読みました。やはり、図書館に納められているだけあって、その辺にある“マンガ”とは、一味も二味も違う作品ばかりでした。中でも一番印象に残っているのが、手塚先生の「アドルフに告ぐ」です。たいていの人を読んでいてと思いますので、話の内容は省きますが、映画を見ているようなスピーディーな展開、登場人物が複雑に絡み合った構成と、見事な作品に仕上がっています。私はこの作品を、4年の後期中間試験の試験勉強の合い間に読んでいたのですが、途中からは、この作品を読む合い間に勉強するようになったほど、夢中になりました。まだ、読んでいない人は、ぜひとも読んで下さい。

最後に、新聞、雑誌コーナーを、取り上げたいと思います。ここで、私はほとんど毎日、奈良新聞を読んでいた。大阪出身の私にとって、奈良についてのいろいろな情報を、この新聞が与えてくれ、この5年間ですっかり、奈良県人になれたのではないかと思います。新聞といえばもう一つ、英字新聞がありますが、これはとうとう読まず（読めず）じまいでした。雑誌でよく読んだのが、「Number」です。これは、スポーツ総合誌ですが、この雑誌を読めば、スポーツの素晴らしさが伝わってくるような、そんな雑誌です。また、「隠れた専門書」とも呼べる、専門雑誌もこのコーナーにあります。化学でいうと、「MOL」、「工業材料」「化学装置」、「水処理技術」等です。これらの雑誌は、専門書ほど難しくありませんので、気軽に読んでみて下さい。そうすると“専門教科は取っつきにくいもの”と決めつけている考えが、変わると思います。

何か、おもしろくない文章をだらだらと、書いてしまいましたが、この他にも、オーディオ・ソフトなども、充実していますので、皆さんも、どんどん図書館を利用して、有意義な高専生活を送って下さい。

蔵書検索は パソコンで！

4月から、利用者のパソコンによる本校図書館の蔵書検索ができるようになりました。LANシステムの導入により、図書館のパソコンが結ばれたため、そのうちの一台を蔵書検索用として利用者に使ってもらうことにしたものです。

今まであまり図書館を利用しなかった人も、さっそく図書館に来て、見て、そして試してみてください。きっとご満足いただけることでしょう。検索には、複合検索・一元検索・高速前方一致検索の3通りの方法があり、書名・著者名・出版者（社）・登録番号・分類番号・ISBN等で検索することができます。検索方法はいたって簡単ですが、もしわからないところがあれば、お気軽に係員にお尋ねください。お待ちしております。（注：利用頻度の高い図書、近年購入した図書以外のもので、書名等が未入力 of 図書もありますので、従来どおり目録カードとの併用をお勧めします、念のため。）

なお、本校の蔵書とは関係なく、現在出版されている図書（1984～）についてもJ-BISC（という名のCD-ROM）により検索が可能です。希望者は係員まで声をかけてください。（この検索は係の方で行います。）

あれこれ上手に使って、心の糧となるような『あなたの本』をぜひ探してみましょ！レポートだってあつという間にできあがりかも？そんなお手伝いがしたくて図書館のパソコンも係員もろろずしているのです。



5C 竹川弘子

平成2年度 読書感想文コンクールについて

今年も、夏休み恒例の読書感想文コンクールを、図書館委員会と国語科の共催で行います。今年は、新しい試みとして、課題図書の本を外し、先生方から推せんされた図書は、すべて参考図書としました。1、2年生の選択の目安として☆印をつけました。が、いずれの学年も、「参考図書」を参考にするけれども、他からも自由に選んでよいことになっています。

図書館のカウンターに並べておきますので参考にして下さい。

参 考 図 書 一 覧

〈 文 芸 作 品 〉

☆我利馬の船出	灰谷健次郎	新潮
☆漂流	吉村昭	新潮
☆オイデブス王	ソボクレス	新潮
☆いまを生きる	N. H. グラインバウム	新潮
☆縦走路	新田次郎	新潮
ラプストーリー	E. シーガル	角川
卒業の夏	K.M. ペイトン	福武
夢をみた海賊	なだいなだ	ちくま
敦煌	井上清	新潮
水中都市デンドロカカリヤ	安部公房	新潮
刺青・秘密	谷崎潤一郎	新潮
近代能楽集	三島由紀夫	新潮
赤ひげ診療譚	山本周五郎	新潮
白夜(彷徨の章)	渡辺淳一	中公
伽椰子のために	李恢成	新潮
電話男	小林恭二	福武
北の海	井上靖	新潮
アーサー王の死	T. マロリー	ちくま

〈 文 芸 作 品 以 外 〉

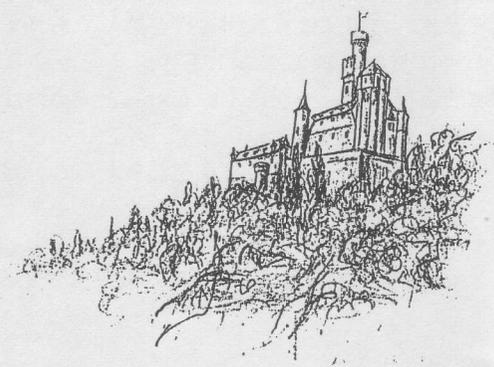
☆未知の国 すばらしい人たち	田沼武能	岩波
☆旅人	湯川秀樹	角川
☆緑の冒険	向後元彦	岩波
☆まちがったって いいじゃないか	森毅	ちくま
☆オモニの歌	岩井好子	ちくま
ぼくの音楽武者修業	小澤征爾	新潮
こころと技術革新	木村治美	文春
日出る国の工場	村上春樹	新潮
ハーメルンの笛吹男	阿部 豊也	ちくま
海峡を越えた ホームラン	瀬川夏央	朝日
古典と伝統について	小林秀雄	講談社
日本の面影	ラフカディオ ・ハー	角川
禅とは何か	鈴木大拙	角川
茶道の歴史	桑田忠親	講談社
おはなしフェージ	西田俊夫	規格協会
日本人の英語	ビーターセン	岩波
学校・学歴・人生	森嶋通夫	岩波
歴史を動かした発明	平田寛	岩波
日本の警察	久保博司	講談社
ソヴィエト見聞録	大蔵雄之助	講談社
飛鳥とは何か	梅原 猛	集英社

?????質問・相談コーナー!!!!!!!!!!!!

①パソコンで検索したら“データはありません”と出ました。現物はあるし、目録カードにもあるのになぜですか?

②現在、図書館には6万5千冊の蔵書があります。そのうち、2万冊ほどの図書については、書誌情報が入っています。残りの4万冊はまだ入力できていません。たまたま、貴方の捜していた図書は、まだ遡及入力できていない本だったんですね。毎日カウンターで入力作業をしているのを見かけることがあります。皆さんも、協力して下さい。

??!!!!!!!!!!!!



5C 竹川弘子

今年度の図書館委員会・学生図書委員会について

今年度の図書館委員会のメンバー及び、役割分担等が次のように決まりました。

図書館委員会		
委員長 犬田(木・金)		
図書部会	視聴覚部会	研究紀要部会
○井口高(水)	○森 (水)	○京兼 (火)
中和田 (月)	中和田 (月)	溝端 (金)
溝端 (金)	西田 (火)	森 (水)
西田 (火)	井口 弘(木)	浅井 (月)
京兼 (火)	浅井 (月)	井口 高(水)
井口 弘(木)	植村 (水)	
植村 (水)		○は部会長 ()は担当曜日

学生図書委員

クラス 学年	MA	MB・S	E	I	C
1	居谷 多恵子	清須美 英神	金 圭史	濱岐祐子 森田潤可	中井勉之 馬渡葉子
2	藤本周作	小松秀雄	松本通弘	中井智也	清水 肇
3	田口 努	楠 欣宏	柳 真介	荒川 毅	川西雅子
4	吉原健一	○仙石 喜隆	多田和也	金城 勝	林 和也
5	尾形活史	隅田康則	上東憲司	濱本公二	辻本達哉

○は委員長

委員長の仙石君(4B)を始め、委員の皆さんは学生と図書館を結ぶパイプ役として活躍してくれることを期待しています。

当番日には、図書館で待機して下さるので、読書指導を受けて下さい。レポート等のアドバイスを受けるのもいいですね。

見なおそう！ “岩波ジュニア新書”

『これからの人生を歩む君たちが、生きることのほんとうの意味を問い、大きく明日をひらくことを期待して』“岩波ジュニア新書”が発刊されたのは、ちょうど10年前でした。“青春をみがくこの一冊”として、以後毎月1～5冊が出版され、現在170冊を数えます。

当初、こんな本が高専生に読まれるかな?と不安がいっぱいでしたが……、真面目に真摯に青春している人が、こんなにもたくさんいました。棚の整理をしながら、ちょっと調べたのですが、どの本にも日付印が押してありました。それを見た時の気持ちは、感動といってもいいくらいのものでした。

とりわけよく読まれた上位20冊のうち、戦争と平和を考えるテーマの本が3冊も入っていたのには驚きました。科学関係のものが5冊というのは高専の性格すれば、当然といえるのでしょうか。あと、青春について5冊、そして趣味を通して人生に問いかけるもの、の順になっています。

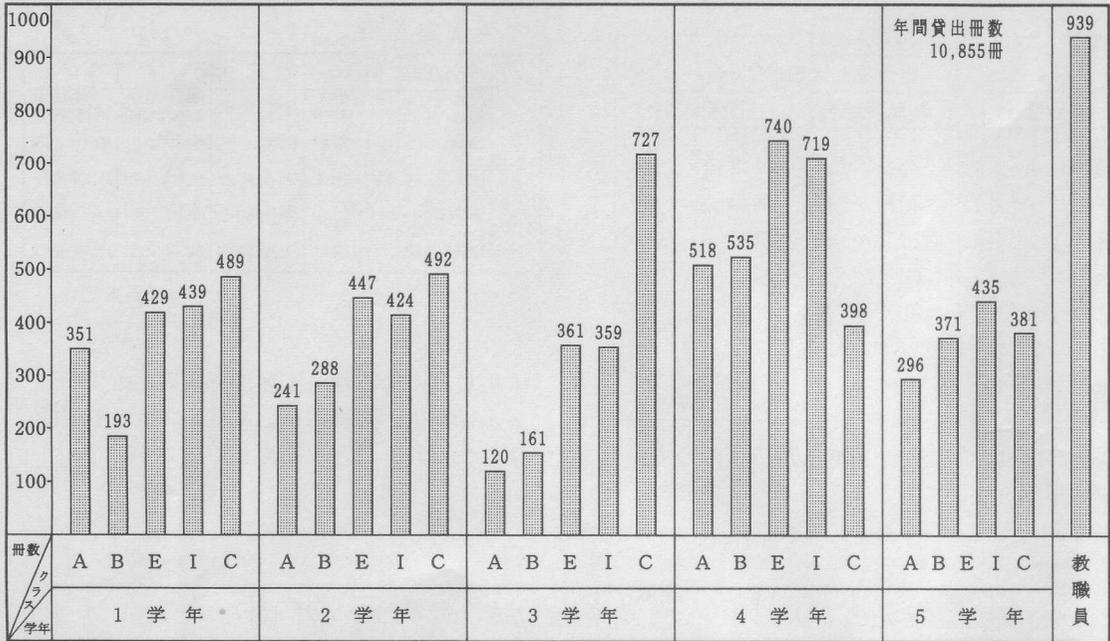
10周年を記念して、岩波書店では行事等を行なっているようです。皆さんもこれを契機に読んでみませんか。

〈奈良高専岩波ジュニア新書ベスト20〉

1	アインシュタインが考えたこと	佐藤文隆	11	聖書物語	山形孝夫
2	思春期の生きかた —からだとこころの性—	石田和男	12	青春とはなにか —友だち・スポーツ・読書—	真継伸彦
3	1945年8月6日 —ヒロシマは語りつづける—	伊東 壮	13	東京が燃えた日 —戦争と中学生—	早乙女 勝元
4	能力・努力・運 —成功の条件と生きがい—	宮城音弥	14	きみたちと現在 —生きる意味を求めて—	宮田光雄
5	考える理科10話	小野 周	15	ベートーヴェンの生涯	山根銀二
6	化学基本データ	竹内敬人	16	戦争と沖縄	池宮城 秀意
7	恐竜はなぜ滅んだか —中世代のなぜ—	小島郁生	17	食糧問題ときみたち	吉田武彦
8	ピラミッドは語る	吉村作治	18	高校野球の青春	神田順治
9	若いやつは失礼	小林道雄	19	最新科学の常識	星野芳郎
10	大学で何を学ぶか	隅谷三喜男	20	登山入門	近藤信行

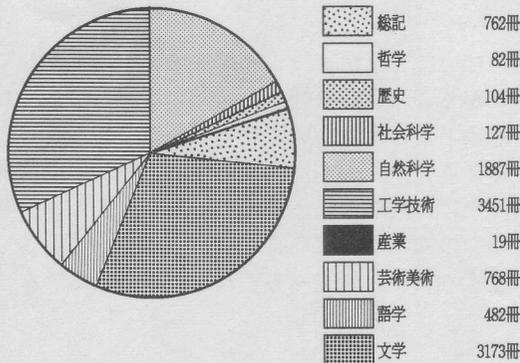
平成元年度 図書館利用統計

〔クラス別貸出冊数〕



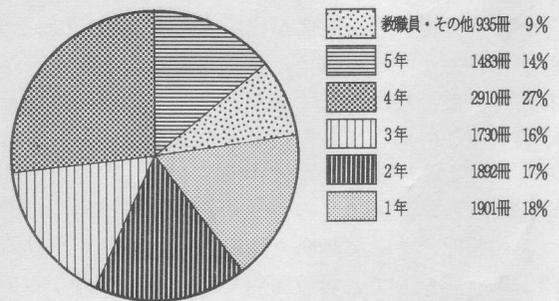
分類番号別利用統計

総数：10855冊



学年別利用統計

総数：10855冊



分類別蔵書数 (1990. 4. 1 現在)

種別	総記	哲学	歴史	社会科学	自然科学	工学	産業	芸術体育	語学	文学	文庫新書	合計
和書	2,812	2,193	4,738	2,783	11,323	15,494	229	2,993	2,918	8,277	4,169	57,929
洋書	374	262	84	94	2,005	1,553	1	79	1,192	1,472	0	7,116
合計	3,186	2,455	4,822	2,877	13,328	17,047	230	3,072	4,110	9,749	4,169	65,045

編集後記

○年3回発行していたのに、いつの間にか2回になってしまっ...

○情宣活動は図書館活動の大切な部門です。次回は、学生図書委員の皆さんにも手伝ってもらって内容の充実・一新を計りたいと思っています。